

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	和こう		
○保護者評価実施期間	令和 7年 11月 15日		～ 令和 7年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数) 30名
○従業者評価実施期間	令和 7年 12月 1日		～ 令和 7年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 14名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 16日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医師や看護師、栄養士、機能訓練士、相談支援専門員など、多職種の視点によるサポートが可能であること	支援での悩みや課題について多職種の意見を即時に確認でき、支援者にとっても安心材料となっている。また定期的にリハビリテーションを見学し、支援に向けて共に取り組むことができる	各部署で研修会などを行い、日々の関わり方や、支援の方法などより専門的な学びにつなげたい
2	小集団の特性を活かし、一人ひとりに合わせた支援が可能。個のペースを大切にしながら適切な集団活動への移行を行うなど、きめ細かい療育への工夫を図ることができる	集団活動が苦手な子どもに対しても、個のスペースや人の配置などを工夫し、ゆっくりとペースを大事にしながら、徐々に集団に参加できるように配慮が行える	遊びを固定化せず、子どもが楽しめる活動を提供できるよう、園内研修や自主研修、外部研修などの機会を増やし取り入れていきたい
3	子どもが併用しているこども園等の職員の困りごとや疑問に対して話し合う機会を設けている。連絡を密に行うことで、困りごとなどがあつた際にはすぐに連携を図り、一緒に解決に向けて考えていくことができる	県委託の研修会を通して、これまでつながりがなかったこども園等の職員とも交流することができる。就学準備や地域のこども園等への移行など、ご家族のニーズを把握できるよう努めている	必要に応じて主となり担当者会議を開催する。また、地域障害者自立支援協議会などに参加し、知り得た情報は現場の職員と共有し、療育支援の向上につなげたい

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	防災訓練などは実施しているが、実際に起こった時の備えや、動きなどを十分に把握し実行できるまでに至っていない。また、ご家族への発信が不十分である	不測の事態に備え、安全確実にご家族への引き渡しができるよう訓練が必要である。 職員の動きや実際の避難行動など、一人ひとりがしっかりと把握し取り組むことが必要である。 避難訓練の様子などを詳しくご家族にお伝えすることができていない	安全計画ガイドラインに基づき、日々の活動の中で危険箇所がないかを確認し、危険リスクを下げる取り組みを行う。またその行動をわかりやすくフローチャート等で表示し、即座に対応できるよう工夫を重ねる 実施した内容をどのように伝えとご家族に伝わりやすいか検討を行う
2	地域の子ども達と交流を行うことができなかった	地域のこども園と交流を図るための時間の設定と、計画を立てることができていない。また感染予防の観点から、外部との交流に消極的になる傾向がある	各関係機関に連絡をとり、交流できるこども園等を見つけ、地域の子どもたちと一緒に過ごす機会を作っていけるよう取り組む
3	行事以外での「ごきょうだい支援」を行うことが少なかった	ごきょうだいのお悩みやご家族内での状況を把握することが難しく、困った時にすぐサポートをすることができていない。日々の関わりの中から、ごきょうだいのことも気兼ねなく話ができる関係づくりが必要である	ご家族が参加しやすい行事活動を計画することを中心とし、日常の連絡や面談の際にごきょうだいへの悩みや関係性なども意識して確認し、応えていきたい